

プロバイダーのおモテとウラ

『ベッコアメの奇跡』

本書は、ユーザー数日本一を誇るインターネットプロバイダー、ベッコアメ・インターネットの社長自らが書いたサクセスストーリーだ。良くも悪しくも、このプロバイダーほど注目を浴び、急成長を遂げたプロバイダーはない。個人で手軽にインターネット接続を始められる利用料金を打ち出してインターネット接続料金の価格破壊を行い、ダイヤルアップ接続を試みてもつながりにくいと悪評がたち、ユーザーがWWWページにわいせつ

図画を掲載して警察の家宅捜索が行われた、あのプロバイダーだ。2年前、なぜ一介の会社員がプロバイダーを始めようと決意したのか。資金力のない会社員がどのようにプロバイダーを運営できたのか。多くのプロバイダーが通信事業、ソフトメーカーやハードメーカーなどの企業から資金や技術を受けてサービスを開始したわけだが、まったくのゼロから作り上げていったプロバイダーがいかんしてユーザー数で日本一になるまでに成長したのか。これらの疑問への答えは、ビジネス本に社長の半生



記を加え、運営の暴露本的味付けをされたこの本の中に詰まっている。「ふ〜ん」と唸らせる内容から、謎めく陰謀のような事件、さらには「エゲツナイ」と顔をしかめる内容まで、ベッコアメユーザーを大いに楽しませてくれる。

尾崎憲一著
廣済堂出版発行
209頁
1300円
ISBN:4-331-50548-0



インターネットの役者たち

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

サイバー国家の建国記

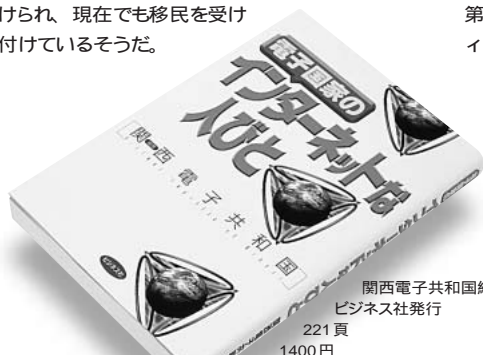
『電子国家のインターネットな人々』

1995年4月、関西に独立国家が1つ生まれた。その名は「関西電子共和国（VRK）」。

インターネット上に構築された仮想国家で、社会のシミュレーションを行う実験である。この国家の一周年を記念して作られたのが本書である。

初代大統領となった中島らも氏からのお言葉から、建国の祖である白井代表が語る建国のエピソード、国民の声、国内の研究所・街案内が収められている。サイバーカルチャーのようなバタ臭さはなく、秋葉系ニューエイジのようなポップさもない、ちょっと泥臭いが親しみやすい文化をもつ国家であるようだ。インターネットのWWWサーバーに築かれた首都「平成京」を中心に、文化活動や経済活動も行われ

る。人口は1000人。経済活動を行うための電子通貨デッセ、マッカ（1デッセ=12マッカ）をもち、移民時には100デッセが与えられる。ボランティア活動などで収入を得ることができ、稼いだ資金で仮想の土地を購入したり、商売を始めたりできる。また社会貢献度によって複数の投票権を得ることもできる。このシミュレーションの成果は仮想社会研究会の学術研究に役立てられる。このバーチャルコミュニティを使った国家の実現を模索する実験は今後も続けられ、現在でも移民を受け付けているようだ。



関西電子共和国編
ビジネス社発行
221頁
1400円
ISBN:4-8284-0686-7

郵政省官僚によるマルチメディア論

『インターネット、自由を我等に』

郵政省の官僚である著者が書き記した数々のメモをまとめたコラム。軽妙な文体で、堅苦しくなりがちな内容を、さりりと、それでいて鋭く表現している。

93年から96年までの3年間滞りしたバリから発信されたマルチメディアに関する話題の電子メールをまとめた第1章「バリ・メディア・ノート」では、欧州のマルチメディアの現状と、国際会議で繰り広げられた各国の通信事情をめぐる交渉が記されている。続く第2章「突破口としてのメディア」では、項目を歌謡曲の

タイトルで彩りながら、世界のメディアの動向を追っている。そして、第3章「メディア・ロマン主義」は、著者のメディア社会への思いを映画のタイトルのもとに書きつづっている。

映画や音楽を中心にしたメディアへの熱い思いがそここに感じられ、その思いの果てに待ちかまえる突破口の外に見え隠れするものは、武邑光裕氏の『デジタル・ジャパネスク』と同じだ。それは、コンテンツであり、コンテンツを生み出す新しい文化の創成期に日本は差しかかっていることを本書でも示している。



中村伊知哉著
アスキー発行
142頁
1000円
ISBN:4-7561-1675-2

ケビン・ミトニック事件の全貌

『テイクダウン』上・下

携帯電話が犯罪小説のトリックや小道具に使われることが多くなった。というのも、移動可能で逆探知がしにくいと思われているからだ。実際には待機中も電波を出しているので追跡装置のようになり、電波の発信源を追っていけば送信者を見つけることができる。電波の発信源を捜すには、指向性の強いアンテナで電波の強い方向を求めていく方法があり、アマチュア無線などではフォックスハンティングというレクリエーションにもなっている。携帯電話の内部を解析したソフトを持つ著者の下村氏のコンピュータに、何者かがネットワークを介して侵入した。狙いはそのソフトらしい。そして、留守番電話

への謎のメッセージ。見え隠れする犯人像。セキュリティーホールの所在、犯人の侵入経路を探らなければ、また攻撃を仕掛けてくる。セキュリティーの管理者として攻防戦を繰り返して、次第に攻めに転じていく。そして携帯電話で犯人ケビン・ミトニックを追いつめていく。犯人像についてはマーコフ氏の著書「ハッカーは笑う」が詳しい。

これは携帯電話とインターネットを舞台に、あたかも小説のような展開を見せるノンフィクションだ。技術的な細かな描写が現実感を出している。それだけに決定した映画化では、ハッキングの様子がうまく伝えられるか疑問だ。まずは読むしかない。



下村努、
ジョン・マーコフ共著
近藤純夫訳
徳間書店発行
283/286頁
各1500円
ISBN:4-19-860501-7(上)
4-19-860502-5(下)

サイバーカルチャーの行く末

『グローバルブレインにリンクする日』

米国のサイバーカルチャー誌『MONDO2000』の元編集長のコラムは、アーティストックで、アクティブで、反体制的で、猥雑な西海岸のサイバーカルチャーの臭いがプンプンする。

シリコンバレーの企業やUCB、スタンフォード大学などのコンピュータサイエンスの聖地とバークレーのヒッピーカルチャー、ゲイなどのマイノリティーも多いサンフランシスコ、これら多種多様な文化が融合して生まれたカルチャーを、サイバーカル

チャーをリードする雑誌の編集長をつとめた著者が語っている。昨今のインターネットユーザーの急増を称して、「ノーマルがネットに押し寄せてくる!」という。確かに、以前のネットは、もっとサブカルチャーの香りがしたし、変な奴も多かった。さらに、「...性の下手な模倣がピューリタンのようなアメリカ人を激怒させ...」とあるように、ネットの中の性的なコンテンツにノーマルが反応した。そして巻き起こる体制からの規制。反体制派は暗号化技術を大衆に解放しようとする。

すでに米国で始まっているインターネットでの体制と反体制のせめぎ合いなど、今後日本でも起こりうるムーブメントについての数々のコラムは興味深い。



R.U.シリヤス著
ビー・エヌ・エヌ発行
165頁
1800円
ISBN:4-89369-431-6

ISDN導入の手引き書

『ISDN スーパーバイブル』

今INSネット64の加入者が急増中だそう。女子中学生が契約するのではないので、SMAPが「ろくよん・ろくよん・いち・にっ・ぱっ」とCMで連呼してるからではない。その要因の1つがインターネットプロバイダーへの高速ダイヤルアップ接続である。しかし、やっとモデムの扱いに慣れた者が高速

性に惹かれてフラフラと始めても、今までの電話回線と勝手が違い、ISDNの迷宮に迷い込んでしまう。

こんな人のためにISDN導入をわかりやすく解説したのが本書である。ISDN導入メリットの解説、導入手順ガイド、パソコン接続・利用ガイド、ISDNサービスオプションの解説、工事/Windows 3.1/Windows 95/Macintosh/TA/一般に分類されたQA集からなる。モデム利用者がINSネット64を導入して、インターネットプロバイダーの同期64Kbps

ダイヤルアップ接続サービスを受けるまでのガイドブックにはちょうど良い。ニフティサーブISDNフォーラムが監修しているだけあって、100問のQA集も知りたい項目が多く載っていて、はじめてINSネット64を使う場合には重宝する。残念なのは、一部のプロバイダーでサービスを開始した128Kbpsのダイヤルアップ接続サービスに使われるプロトコルのマルチリンクPPP(MP)については取り上げてないことだ。



水野勝成著
NIFTY-Serve ISDN
フォーラム監修
アスキー発行
287頁
1800円
ISBN:4-7561-1657-4



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp